

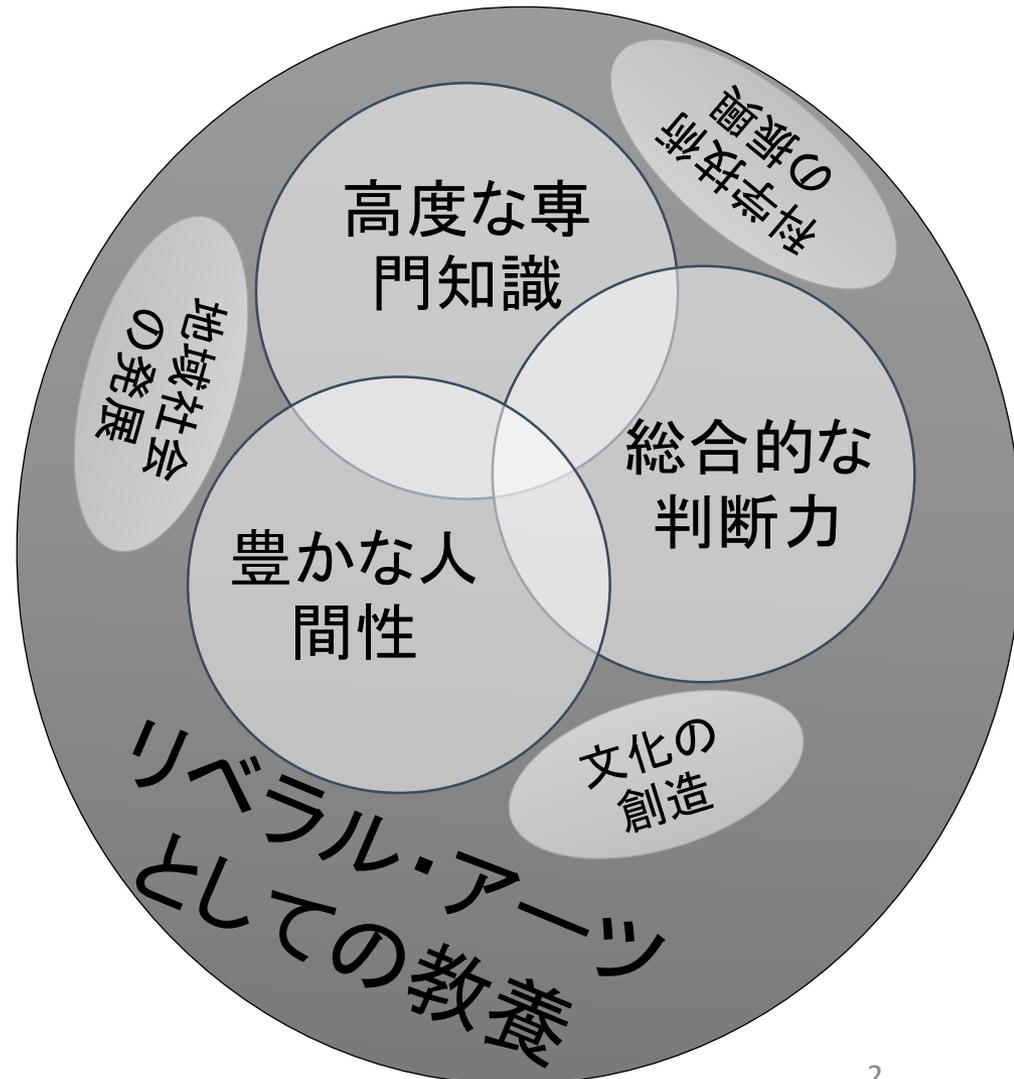
基礎教育研究センターが 考える「我々の目的」

この資料は、以下の会議において、「2030年の基礎教育研究センター」について意見抽出したものを取りまとめた、中長期目標・計画策定のための「意見まとめ」に関する概略案である。

- 2017-07-10 基礎教育研究センター会議
- 2017-07-10 G新カリキュラムWG
- 2017-07-15 部局内概略案提示
- 2017-08-03 G新カリキュラムWG・概略案一部修正
- 2017-08-07 基礎教育研究センター会議
- 2017-08-21 G新カリキュラムWG
- 2017-08-28 G新カリキュラムWG・原案提示(予定)

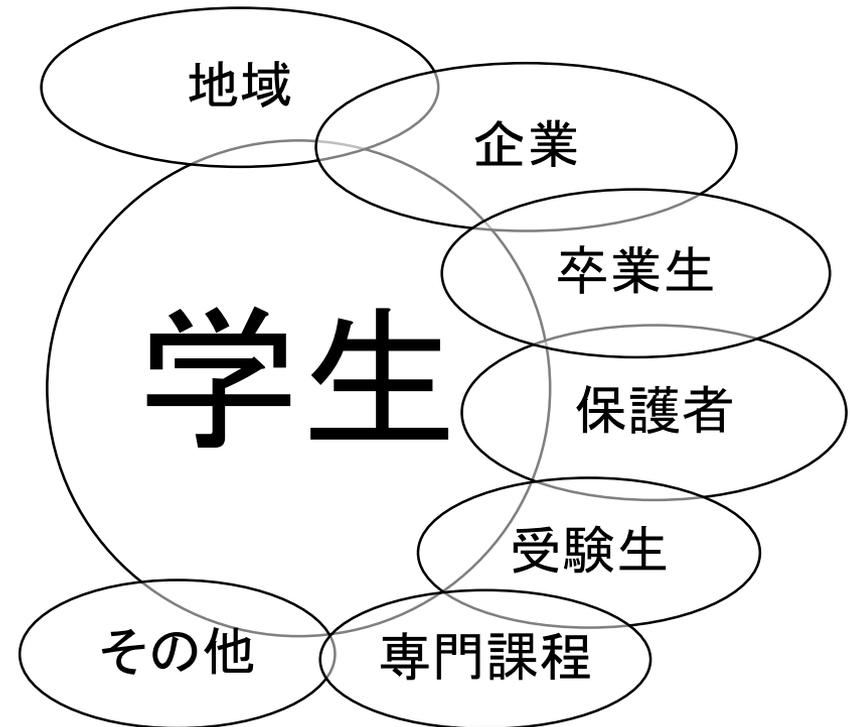
基礎教育研究センターは 何をするのか

- 時代や環境の変化に伴う価値観の変動を超越した、人間形成、人格完成に資する
- 一般教養の修得を助ける
- 教養とは、知識を活用し、様々な視点から物事を考え、時代や環境の変化に柔軟に対応し、総合的に判断できる能力を指す



基礎教育研究センターの エンドユーザー

- 直接相互作用する「学生」の「学び」を最大化する
- 他のステークホルダーは「学生」を介して我々と繋がっている
- 「学生」の「学び」が関係者の利益に直結する

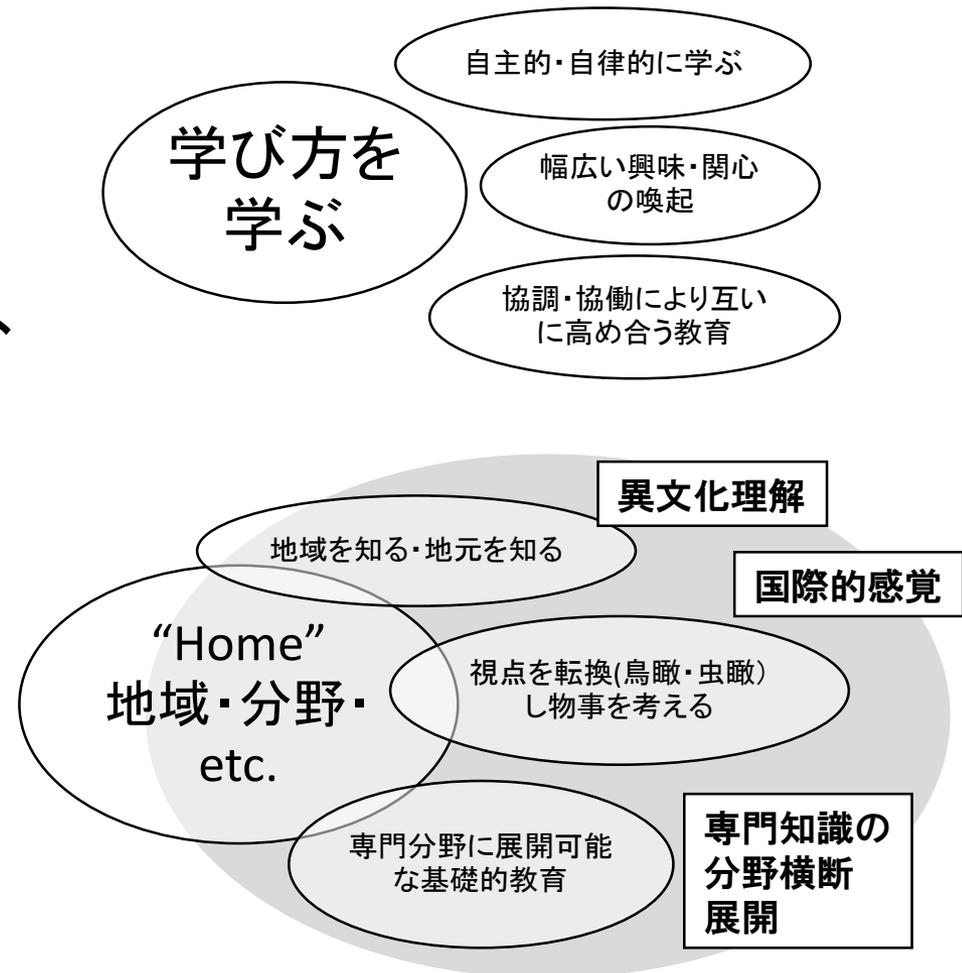


2030年に目指すべき
「目的」について

基礎教育研究センターの 教育の理念

将来像:

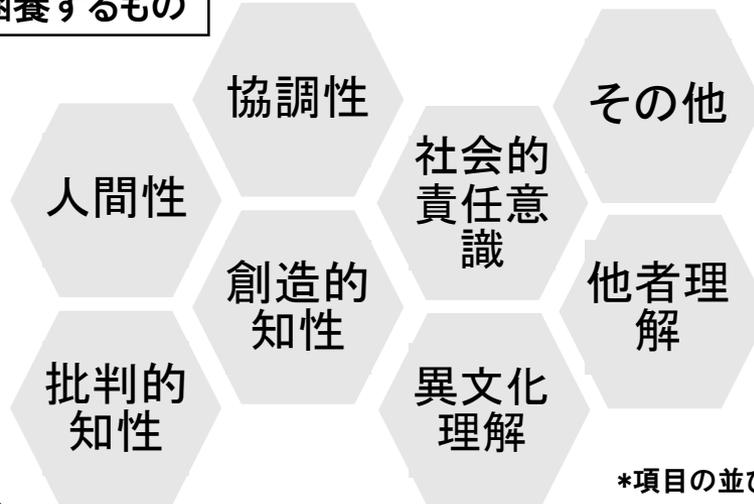
- 教養教育・リベラル・アーツを展開できる能力を涵養し、高大接続のための教育と教育研究の実践する
- 拠って立つ”Home”の確立を促す。”Home”を包含する社会に貢献する、広い知識と国際的・学際的視野を持った人材育成のための教育を実施する



基礎教育研究センターの 教育の目標

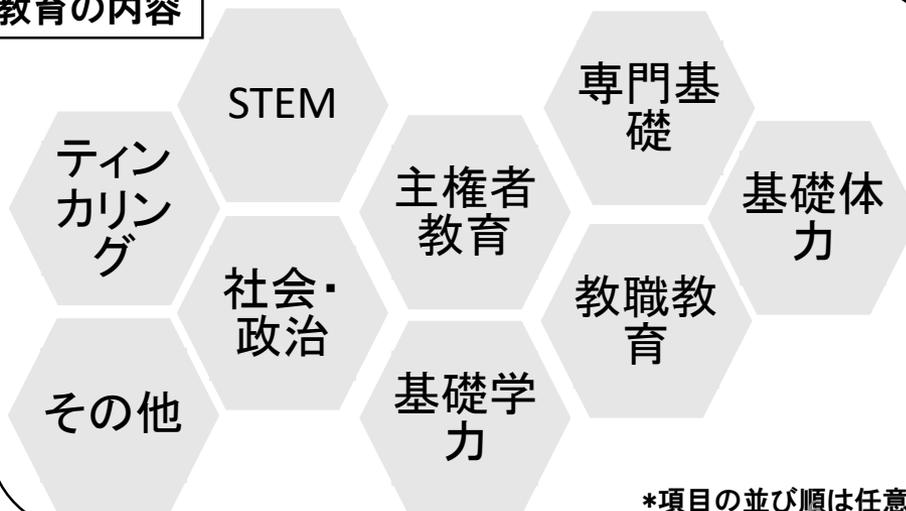
- 学生が主体的に学ぶための知識と方法論を提供する
- 学生の「学び」における高大接続と専門接続を容易にする教育を提供する
- 多様化する学生・聴講生を見据えた履修モデルの複線化・6年8年モデルの作成
- 地域のリベラル・アーツ・センター機能：学生と一般聴講生が共に学ぶ講座を開設する

涵養するもの



*項目の並び順は任意

教育の内容

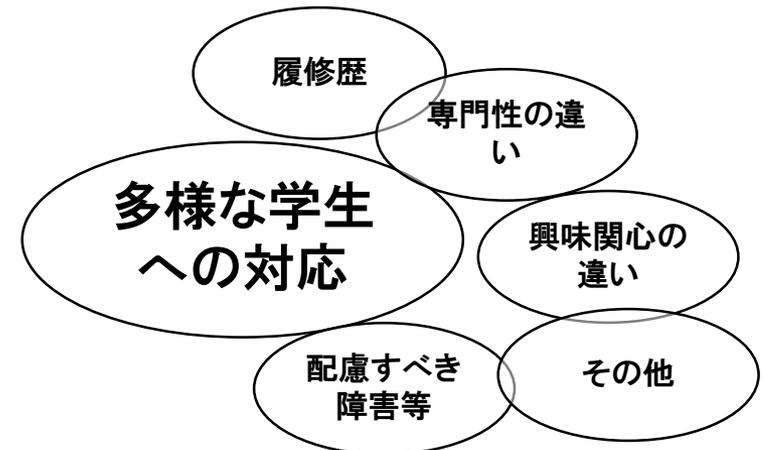


*項目の並び順は任意

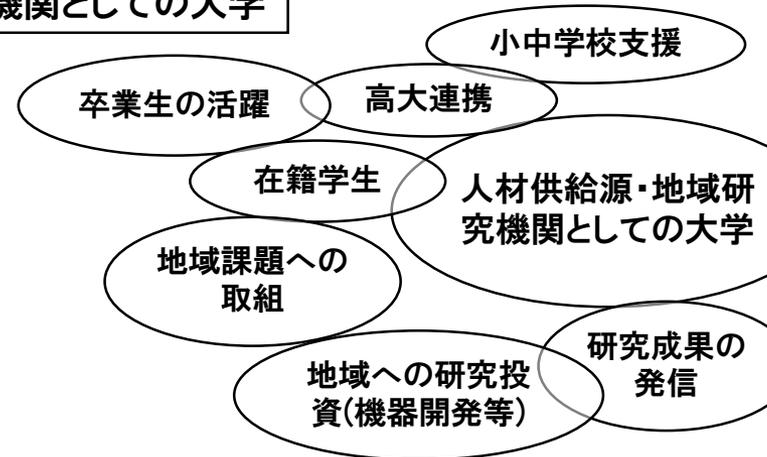
大学教育に対するニーズ・ 社会環境

- “Home”の一つとして地域を据える学生の輩出
- 人口減少に備えて一人ひとりが活躍できるような多様な学生への人材育成
- 研究成果の地域展開し、地域産業に資する
- 地域シンクタンク:時代に即した人材招聘機能(講演企画実施・教員の新規採用)

教育機関としての大学



研究機関としての大学



八戸工業大学の学校資本・アセット

- 真面目で純粹・素朴な学生・卒業生の築いた評価
- 夏季冷涼なほどよい地方都市
- 広い校地・駐車場、国道沿い・インター側を活かした市民への施設・設備提供

• 課題

- ✓ 少人数カスタマイズ教育に対応する整備
 - 少人数用のゼミ室を多数
 - ICT機器の整備と常時更新
 - 教材開発期の人材投入
- ✓ 市民利用の促進
 - 大教室・ホールを整備し、多様な講演等の開催機能
 - ゼミ室の一般研修利用
- ✓ 体育館の整備・改修
 - 体育館は地域防災拠点
 - 青森国体2025年開催予定
- ✓ 周縁の学生街の発展
 - 大学活用の機運を助ける

八戸工業大学の基礎教育の 独自性

- リベラル・アーツを敷衍する教育

- ✓ 各種民間団体との連携
- ✓ 地域活動の教育への取り込み

- ICT利用によるカスタマイズ教育・教材開発

- ✓ 高大接続科目
- ✓ 専門との連携
- ✓ 専門間の融合

- 課題

- ✓ 多様な教員の専門性を、ただの寄せ集めにしないシステム
- ✓ 人材採用の抑制の中、多様化する学生へのカスタマイズ教育提供にはICT教材開発が必須
- ✓ カスタマイズ教材での指導補助に、積極的に関与する学生グループの立ち上げ